

P 28 血液流動難易度と生理活性水飲用による 変動

○大川尚子、泉 久子、宛 文涵、韓 劍
鋒（財：石川天然薬効物質研究センター）
清水昌寿、松井健一郎、宗志平、山口宣夫（金沢医科
大学 血清学）

<目的>血液粘度の上昇は活性化白血球や血小板による毛細血管の閉塞・壊死をもたらし、虚血による血管壁へのダメージを与えかねない。このように血液粘度の上昇は動脈硬化を始めとする生活習慣病の進行と深い関わりがあると考えられる。他方で、血液粘度の過度の減少は低蛋白血症などを反映していると考えられ同様に好ましくない。我々はこれまで飲用水を含めた経口剤による生体調節を試みてきた。今回、ある種の飲用水飲用の場合に各個人の血液粘度を適切な方向へ調節する傾向があることを見出したので報告する。

<方法>20～50代の6名のボランティアに創生水（創生水ワールド）を4週間連日平均1 liter 飲用させ、飲用前後に各被験者よりヘパリン加静脈血5mlを採取した。上記全血100 μ lをMC FAN KH-3（日立原町電子工業）装置中を通過させ、全血通過時間を測定した。

<結果>6名の被験者のうち2名において創生水飲用後の全血通過時間が短縮された。特に20代の被験者では顕著に短縮された。これら全血通過時間が短縮された被験者では高かった血液の粘度が低くなるように調節された（血液のサラサラ化）。別の1名の被験者では全血通過時間が延長された。この被験者では低かった血液粘度が高くなるように調節された。この他、もともと血液粘度が比較的適切であった3名の被験者では創生水飲用前後で有意な変化は見られなかった。

<考察>創生水飲用前血液粘度が高かった2名の被験者では飲用後血液粘度が低くなった。特に20代の被験者では飲用開始前の2週間摂食・睡眠共に不十分という事情があり極度の疲労状態にあったと推察される。このため創生水飲用により全血通過時間が大幅に改善されたと考えられる。他方、飲用前血液粘度が低かった被験者では飲用後血液粘度が高くなった。今回の実験によって適切な血液粘度から乖離した被験者で創生水飲用により血液粘度を適正化させる傾向が見られた。